あいち農産物生産流通レポート

平成１９年８月号

◎情報サロン
・担い手の確保で野菜価格安定制度を有効活用
（園芸農産課） ------ 1

◎地域トピックス
・花色が美しく秀品率が高いスプレーカーネーション ------ 2
「ドリーミィーピンク」の開発 （農業総合試験場）

◎東日本情報
・平成１８年度京浜市場における愛知県秋冬野菜の販売 ------ 3
結果について （東京事務所）

◎西日本情報 ------ 5
・（社）日本花き卸売市場協会中部支所研修会について
（食育推進課）

◎フラワーページ
・第４０回愛知県山村花き品評会が開催されました ------- 7
（園芸農産課）

◎青　果
・愛知産青果物の動向（名古屋・東京市場） ------ 8
・名古屋・東京市場における青果物の８月の見通し ------ 9

◎花　き
・切花・鉢花の８月の見通し（県内市場） ---------- ２１

◎輸出入
・主要農産物の輸出入実績（２００７年５月） ---------- ２５

◎関連指数 ---------- ２６

本書の内容についての問い合わせ先
愛知県東京事務所総務課物産情報グループ (03)-5492-5400
愛知県農林水産部食育推進課 (052)-954-6417

情 報 サ ロ ン

園 芸 農 産 課

担い手の確保で野菜価格安定制度を有効活用

野菜農家の経営安定と野菜の安定供給に大きな役割を果たしている野菜価格安定制度が、今年度から担い手を中心とした産地を重点支援する仕組みに変わりました。

○担い手の確保状況により産地を３区分

新たな制度では、担い手の確保状況と、計画的な生産・出荷の取組状況により、産地を３つに区分し、補てん率に格差を設けました。これまでの一律９０％補てんは、９０％、８０％、７０％の３区分になり、９０％補てんを受けるには、担い手の作付面積シェアが６０％以上とされました。補てん率は、各産地の作成する産地強化計画に基づき適用されます。

供給計画のプラス・マイナス５％未満での出荷が達成されれば、補てん率が１０％引き上げられ、その対象品目も重要野菜から指定野菜全品目に拡大されました。

○野菜生産の担い手

野菜生産の担い手は、安定的・継続的生産者とされ、具体的には認定農業者と認定農業者に準ずる者が対象となります。このうち、県内の野菜産地の状況を勘案し、認定農業者に準ずる者については県独自の特認も設定しました。

○８割以上の産地が９０％の補てん率を確保

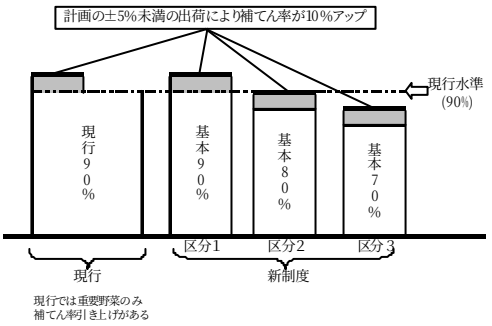
ＪＡ、市町村等産地関係者が精力的に経営改善計画、産地強化計画の策定に取り組んだ結果、価格安定事業に加入している４０産地のうち３３産地（８２．５％）が第１産地区分にはいる見込みとなりました。県では、担い手の確保により価格安定制度の見直しに適切に対応できたと考えています。

なお、他の野菜主産県における第１産地区分のシェアは、北海道９７．９％、千葉県８３．３％、熊本県７４．１％、茨城県７２．７％、埼玉県６６．７％、群馬県６６．０％となっています。

A表　産地区分表

産 地 の 要 件	補てん率	
	基　本	供給計画の±5%未満での出荷が達成
1　以下のすべてを満たす産地 ①　安定的（継続的生産者」の作付面積シェア（現状）が60%以上であること。 ②　過去3年間計画どおりの出荷を行っていること。（過去3カ年間、供給計画の120%以上の出荷を行っていないこと。3年ごとに見直しを実施。H15～H17の計画と実績で判定）	90%	100%
2　安定的（継続的生産者」の作付シェア面積（現状）が40%以上であり、上記の区分に該当しない産地	80%	90%
3　上記の2区分に該当しない産地 安定的（継続的生産者」の作付面積シェア（現状）が40%未満、又は、産地強化計画を策定していない産地	70%	80%

A図　産地区分別の補てん率について



地域トピックス

農業総合試験場

花色が美しく秀品率が高いスプレーカーネーション「ドリーミィーピンク」の開発

農業総合試験場では、平成11年から愛知県花き温室園芸組合連合会カーネーション部会及び育種クラブの協力を得て、栽培しやすく市場性の高いスプレーカーネーションの育成を目標に品種改良に取り組んでいます。

カーネーション経営は、需要の減少や海外からの輸入の増加により販売価格が低迷し、一層のコスト削減を迫られています。このような状況で、生産者から、ロイヤリティの負担の小さい本県のオリジナル品種の育成が望まれていました。

今回紹介する「ドリーミィーピンク」は、愛知県が「エアーズロック」に続いて育成した2品種目のカーネーションです。

育成経過

「ドリーミィーピンク」は、平成12年に125組合せの交配により得た12,000粒の種子から、有望な形質をもった株の選抜を重ねて育成しました。

交配種子の親は愛知県育成品種第1号の「エアーズロック」（ベージュピンク色）、花粉親は、本県育成系統の「99sp367-11」（鮮薄桃色）です。

平成17年7月に品種登録出願し、平成18年10月に出願公表されました。

平成12年 交配	平成13年 一次選抜 (実生選抜)	平成14年 二次選抜	平成15年 三次選抜及び現地試作	平成16年 特性検定 市場性評価 現地拡大展示試験	平成17年 品種登録 出願
125組合せ 種子12,000 粒を得た	有望な125 株を選定	7系統を 選定	1系統を 選定	「カーネ愛知2号」	「ドリーミィー ピンク」

「ドリーミィーピンク」の特徴

- 花はピンク地の花弁に白色の縁取りのあるかわいらしいもので、高い市場性が期待できる。アレンジにも最適。
- 収量は平均的（年間株当たり約6本）であるが、切り花秀品率が90%と高くロスがほとんどない。
- 茎は伸長性にすぐれ、かつ硬い。
- 二次側蕾の発生が少なく、スプレーフォーメーション（花房の形状）がよい。
- 開花の早晩は中晩生で、11月以降に出荷。

ドリーミィーピンク

「ドリーミィーピンク」は、平成18年春から生産が始まっています。本格的な栽培に向けて、苗の生産体制を整え、県内産地の活性化に役立つことを期待しています。

東 日 本 情 報

東京事務所物産情報グループ

平成１８年度京浜市場における愛知県秋冬野菜の販売結果について

７月１０日に品川区において京浜地区の卸売会社・愛知経済連・愛知県の出席を得て、京浜市場愛知県野菜連絡会主催による秋冬野菜販売反省会が開催されたので、その概要をまとめました。

１　販売結果概要

平成１８年度の京浜・関東市場における本県産秋冬野菜については、秋以降は台風等の天候による被害もなく、また、暖冬傾向による作付の前進化が続き、重量野菜を中心に潤沢に入荷したが、価格は安値で推移しました。特にキャベツは供給過剰のため出荷調整が行われました。３月は中旬以降の低温で入荷が減少しましたが、価格は平年並みでした。

本県産野菜の販売状況は、経済連東京営業所扱いで２１，１１０百万円（前年度対比９０％）、数量は９２，７９１トン（同１０２％）、単価は２２７円／kg（同８９％）となりました。

関東・東北市場における愛知県野菜の販売実績　〔単位：百万円〕

販売金額上位５品目	１８年度	１７年度	１６年度	１５年度	１４年度
キャベツ	2,822	4,346	4,296	3,507	4,006
ブロッコリー	1,624	1,486	1,239	1,601	1,547
トマト	3,905	3,886	3,917	3,744	3,715
ミニトマト	3,187	3,216	3,186	2,912	3,557
おおば	3,615	4,234	3,819	4,215	5,349
野菜　計	21,110	23,326	22,619	23,085	25,193

（数値提供：ＪＡあいち経済連東京営業所）

２　品目別販売概要（京浜市場愛知県野菜連絡会の各研究会がまとめたもの）

(1) キャベツ

ア　販売経過

年内は、暖冬傾向の中、適雨もあり、キャベツの生育に適した気候が続き、各産地とも前進豊作傾向となり安値で展開しました。また、安値基調のため収穫遅れの影響で大玉傾向となり、本県を中心に産地廃棄による需給調整が行われました。年末２５日の販売以降、経済連を中心とした値決め予約販売を初めて試みたところ、計画的販売を行うことができ、大変良い結果を得られたと思います。年が明けても安値展開は変わりませんでした。３月中旬以降、前進出荷されていた春系が終了し、後作の春系の出荷数量は冷え込みのため増えず、冬系中心の出荷が続き、基調もやや上向いていきました。４月に入り、新春系の数量も増えなかったし、冬系品種「冬のぼり」の品質が良かったため、高値展開となり終了期を迎えました。

イ　競合産地の動向

千 葉 県：暖冬と適度な降雨により前進、大玉豊作傾向となり、１０月から年明け２月までは出荷計画を大きく上回りました。また、一部の地域は大

根からの転作も見られました。

神奈川県：暖冬のため１１月から年明け１月までは前年を上回る出荷がされました。２月に入り前進出荷と品種の移行、間作している大根のほ場残荷の影響により減少しました。

茨 城 県：近年、白菜からの転作が進み面積は年々増加傾向にあり、冬系中心で推移しました。

輸　　入：昨年のポジティブリスト制の導入以後、輸入量は減少し、市場販売としての入荷はありませんでした。

ウ　消費動向

暖秋、暖冬の影響から常時大量の入荷となったことから、量販店では１個９８～７８円の特売等が組まれましたが、一部では特売の魅力に欠けるということで特売の商材から外す量販店も見られました。加工筋は中国産をほとんど仕入せず、本県産冬系キャベツの大玉中心に仕入しました。

エ　野菜連絡会から本県への提言

- 加工契約取引の対応と特注対応の見直し（顧客の確保に繋がる通常販売の重視）
- 春系品種で８玉中心の出荷
- ３、４月期の春系の更なる品種検討、４月期の冬のぼりの面積拡大
- 品種冬みどりの導入検討

(2) トマト

ア　販売経過

夏秋ものの残量と抑制もの主体に９月から１０月中旬までトマトの価格は堅調でした。しかし、暖秋の影響による増加傾向に、１０月下旬の西南暖地の入荷始まりや、１２月中旬以降主力の熊本産の更なる入荷増が重なり、年末にはここ数年経験のない安値となりました。年明けの１月は市場内在庫の影響等から荷動きが良くありませんでしたが、２月には暖冬による気温高と春商材としての引き合いも強く、３月までファーストトマトも含めて堅調に推移しました。

イ　競合産地の動向

熊 本 県：黄化葉巻病対策により定植時期を大幅に変更させることはない。一部で耐病品種の導入を検討中。またミニトマトへの移行も若干進んでいる。

主要品種：桃太郎はるか、桃太郎Ｊ

静 岡 県：主力産地については、春トマトで５０％の面積増となっている。長段取りタイプは現状維持。

主要品種：長段どり　桃太郎ヨーク
春タイプ　桃太郎ファイト、ヨーク、コルト

ウ　消費動向

年内から２月までの食味の悪さが消費を鈍らせたため、厳寒期の食味の向上が不可欠です。

エ　野菜連絡会から愛知県への提言

春商材としての引き合いが確実な３・４月の数量確保が重要です。ファーストトマトと共に愛知県のシェアが拡大できるような出荷体制が望まれます。

また、ファーストトマトについては、面積確保と更なる食味向上が期待されます。

西 日 本 情 報

食 育 推 進 課

（社）日本花き卸売市場協会中部支所研修会について

（社）日本花き卸売市場協会中部支所主催の研修会が６月２０日に名古屋駅の名鉄ニューグランドホテルで開催されました。

研修会では、酪農学園大学教授で農学博士の細川允史氏による「ここ十年に於ける卸売市場法の改正と市場流通の変化及び今後の対応」と題した講演がありましたので、紹介いたします。

１　卸売市場の現状

細川教授は卸売市場の現状を次のように説明されました。

①　卸売市場の経由率低下に歯止めがかからない。特に果実においては出荷に依存しない観光産業化へシフトしており、平成１５年は５０％を割り込んでいる。

②　地元小売商の減少と大型量販店の仕入れ先の集中に伴い、出荷団体が大型卸売市場へ出荷を集中化させつつあり、小規模卸売市場の卸売会社は採算をとれなくなってきている。

③　出荷団体からの高価格要求、小売からの低価格要求により卸売会社の利益率が低下している。

④　仲卸会社の業務である量販店等への分配を卸売会社も行うようになり、卸売会社と仲卸会社が役割を分担する理由が希薄になってきている。

⑤　機械化が進んでいないため人海戦術からの脱却ができていない。また、予約相対などの定着化により業務は前倒しされ２４時間態勢になり人件費は増え、若い職員が定着せず人材不足である。

２　卸売市場における花きの位置付け

花きは、食べ物のような需要の上限はないが、生命維持のための必需品ではないので、価格の浮沈が激しいことが特徴である。

しかし、嗜好品のため価格動向に対する世間の関心は低く、公正取引の確保などの監視が食品ほどでない。

３　今後の卸売市場に必要なこと

見学や観光などで卸売市場を一般消費者に対して開放することが重要で、特に花き市場では、花きの種類などの商品知識を消費者に持ってもらい、花き消費の裾野を広げ消費拡大につなげていくことが大切である。

また、取扱数量が減っていることから、地域連携による集荷や市場間連携などにより卸売市場の機能強化を図ることが必要である。

４　委託手数料の弾力化とその対応

平成２１年４月の委託手数料の弾力化について、次のような情報の提供と意見がありました。

（１）東京都中央卸売市場における検討状況

東京都は今年度中に方針決定し、来年６月議会に諮り、業務規程に関する条例の一部改正を予定していること。

卸売会社のうち、食肉については自由化して率の引き上げを期待し、青果については開設者が率を決めることを希望していること。

卸売単価の下落で、定率性では経営が立ち行かず、定額性への移行も検討していること。

（２）手数料率弾力化への対応

手数料率の弾力化に向けて、①人材確保、②商品知識の提供能力の養成、③業務内容に見合った労働条件（賃金等）の見直しが必要になってくる。

フラワーページ

園　芸　農　産　課

第４０回愛知県山村花き品評会が開催されました

平成１９年７月２５日（水）に、設楽町立田口小学校（北設楽郡設楽町田口）を会場に「第４０回愛知県山村花き品評会」が開催されましたので御紹介します。

県内の山間地域の花きを一堂に集めて開催する本品評会は、本県の山村地域における花きの栽培技術と品質の向上を期するとともに、この地域の花きの消費宣伝を図ることを目的に毎年開催され、今回で第４０回目を迎えました。品評会は、７月２４日に出品物の搬入と審査が、翌２５日には表彰式と一般公開が行われ、会場は多くの生産者や来場者で賑わいました。

１　出品・審査結果

今年の気象は６月までは例年より日照が多かったが、７月に入ってからは曇天が続き、その影響のためか出品点数は例年よりも少ない２８６点（切花類１６８点、枝物類５４点、鉢物類６４点）でした。

金賞を受賞した２８点

審査は、市場･流通関係者及び県の試験研究関係者等１０名により行われ、２８点の金賞（特別賞）と２９点の銀賞が選ばれました。愛知県知事賞には豊田市の原田砂都美さんの小ギク、瀬戸市の横道厚子さんのシキミ、新城市の平松敏治さんのポットマムの３点が選ばれました。いずれも天候不順の影響を感じさせない、品目の特徴をよく表した品質であり、商品価値の高い出品物でした。

２　表彰・一般公開

表彰式は受賞者とその家族を始め、周辺住民の方々も参加して開催されました。品評会長である神田真秋愛知県知事は主催者挨拶で「花き産出額全国１位を誇る本県の花き産業の一翼を担う皆様に、深く敬意を表します。山間地域の気象条件を活かして作り込まれた花々が、本県の特産品として高く評価されていることを喜ばしく思います。」と述べ、褒賞の授与では三河間伐材の板をレーザーで加工して作られた木製の県知事賞状を受賞者に手渡しました。

知事賞を手渡す神田知事

品評会場には色鮮やかな小ギクやポットマム、シクラメン、観葉植物等が展示され、来場者の目を楽しませたほか、地元農協等の協力により新鮮な農産物や地域特産品の販売等も行われ、来場者は緑豊かな山村で楽しい夏の一日を過ごすことができました。

一般公開の様子

愛　知　産　青　果　物　の　動　向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか　：±２％台以内
や　や　：±３～５％台
かなり　：±６～15％台
大　幅　：±１６％以上

○　名古屋市中央卸売市場（品目：ハウスみかん）

	入荷量（t）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	うち愛知産	前年の主な他産地（上位３産地）
１８年実績	７１３	４５８（６４％）	７７０	８０３	愛知　（６４％） 佐賀　（１２％） 静岡　（１１％）
１９年見通し	６５０	４００	７８０	－	

入荷量及び卸売価格の概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
梅雨の時期にもかかわらず、雨が少なく気温も高めで推移したため、実が凝縮し、小玉傾向で、甘味が強い。 油の高騰により作付面積が減少しているため、８月の入荷量は前年を大幅に下回るであろう。９月以降はグリーン品種の入荷が見込まれる。 価格は前年並みの見込み。	最近、売場が増加してきたデパート等では少量で美味のものが好まれるため、高品質のものであれば、価格が高めでも引きあいが強い。産地それぞれの特徴を活かして出荷をするとよい。 夏場は、冷蔵庫で冷やして食べたほうが味がよいので、ＰＲするとよい。

○　東京都中央卸売市場（品目：ハウスみかん）

	入荷量（t）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	うち愛知産	前年の主な他産地（上位３産地）
１８年実績	１，４６２	２３９（１６％）	７７２	９３２	佐賀　（５０％） 長崎　（１０％）
１９年見通し	１，３００	－	７５５	－	

入荷量及び卸売価格の概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
佐賀中心に愛知、長崎、愛媛、大分から入荷する。全国的に着果が多くやや小玉傾向となっているものの食味は良好で、順調な入荷が見込まれる。 ８月に出荷する作型の栽培面積は２割ほど減少している。そのため、入荷量は前年をかなり下回ると見込まれている。価格は高かった前年をやや下回るものの、平年を上回ると見込まれる。	愛知のハウスみかんは品質管理がしっかりされており、市場や消費者から高く評価されている。毎年、気温が高くなってから一部に腐敗果の混入がみられるので、特にこの点に留意して厳選出荷に努めてもらいたい。

関　連　指　数

項目 / 年月		消費者物価指数（全国 平成17年＝100　愛知県 平成17年＝100）				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全国	18年平均	100.3	105.8	104.0	100.8	102.2
	19年 2月	99.5	95.7	109.9	101.9	102.5
	3月	99.8	98.9	108.2	102.2	104.2
	4月	100.1	104.7	98.2	102.1	105.5
	5月	100.4	103.2	109.9	102.1	104.8
愛知県	18年平均	100.2	103.9	102.5	99.8	103.9
	19年 2月	99.7	90.9	114.3	98.7	102.7
	3月	100.2	94.8	111.8	98.9	105.6
	4月	100.4	99.4	104.5	98.7	106.9
	5月	100.6	100.6	112.8	101.3	105.0

資料　全　国‥総務省統計局「消費者物価指数月報」
　　愛知県‥愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

項目 / 年月	農業物価指数　（平成12年＝100）				
	農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
17年平均	99.7	91.9	104.7	90.7	109.3
18年平均	102.3	90.8	112.7	106.1	108.5
19年 2月	100.2	90.7	92.9	125.4	107.6
3月	104.3	90.9	105.4	111.3	108.9
4月	103.4	90.9	104.6	121.7	107.0
5月	97.3	90.9	98.5	100.7	107.5

資料　農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

名古屋市小売価格（円）

品目 / 単位 / 年月	うるち米(単一品種、「ｺｼﾋｶﾘ」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご（ふじ）
	5kg	1kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年平均	2,256	174	184	606	426	278	161	359	217	538	630	193	502
19年 2月	2,218	97	105	460	469	269	98	255	214	584	624	185	494
3月	2,226	108	152	466	465	275	110	241	216	495	713	187	514
4月	2,243	170	185	493	449	273	147	312	220	440	686	191	520
5月	2,251	204	168	494	477	300	146	357	204	439	544	201	557

品目 / 単位 / 年月	みかん	グレフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウフルーツ	緑茶（せん茶）	カーネーション	きく	バラ	豚肉（ロース）	牛肉（ロース）	まぐろ
	1kg			100g	1kg		100g	1本			100g		
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年平均	546	354	404	153	245	686	609	159	168	312	233	793	497
19年 2月	654	359	528	182	259	721	586	161	175	322	214	763	521
3月	720	403	549	157	266	649	597	174	175	328	225	754	516
4月	―	353	544	137	280	741	607	161	169	314	217	760	503
5月	―	337	552	139	268	754	608	177	163	315	222	783	489

資料　総務省統計局「小売物価統計調査報告」

あいち農産物生産流通レポート　№410
平成１９年８月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目１番２号
電話　（０５２）９５４－６４１７